



勝浦市太極拳サークル

新規会員随時募集

美心会だより

合同練習を毎日新聞が報道

毎日新聞

勝浦で太極拳

移住シニア中心に2団体

首都圏から勝浦市に移住したシニア層を中心に太極拳が静かなブームを呼んでいる。太極拳は中国武術の一つ。激しい動きがないため心臓に負担を掛けない。体の柔軟性や心肺機能を高められるのが魅力のようだ。

指導しているのは、市内に別荘がある東京都練馬区の会社経営、山岸定男さん。太極拳の練習会師範の資格を持つ。17年前、守谷地区の公民館で太極拳の市民講座を開いた。公民館での半年間の講座終了後、太極拳を続けたい市民らが山岸さんに指導を依頼。土曜に興津中で練習する「美心会」（野口洋子会長、会員27人）と、日曜に興津小で練習する「清心会」（祝原紀）の2団体。

二つのサークルが生まれ、主に首都圏からの移住者の間で広がった。会員の平均年齢は約70歳という。

最年長の80代女性は19年前、元銀行員の夫と東京から移住。夫に先立たれたが、太極拳を始めるとは新たな友達もできたという。「自分のペースで楽しんで」と話した。

太極拳の2サークルは合同練習会で日々の練習の成果を発表した。勝浦市の興津小体育館で



5月27日（土）毎日新聞朝刊の記事

4月29日の第14回合同練習の取材記事が5月27日（土）の毎日新聞朝刊に掲載された。

取材翌日から、誰もが期待して毎朝紙面に目をこらしたが、ゴールデンウィークは紙面が狭く掲載されることはなかった。一時はボツも懸念されたが、辛抱強く中島記者に働きかけ、美心会の発展と更なる充実に力を注いだ門屋さんと、ご協力いただいた「白沙の会」の大野興風氏の尽力の賜である。活動が広く知られ、新会員獲得につながることを期待したい。

定期試験で合格

6月3日（土）2017年の前期定期試験が興津中学校体育館で実施された。受験したのは、簡化太極拳24式を伊達さん、楊式太極拳88式を吉田さん。



緊張！、自信？の演武

全員が見つめ緊張感が漂う中、見事に表演したものの結果が出るまでは不安がつる。心臓の鼓動が高まり、長〜い時間が経過、そのとき、山岸先生から「合格」の言葉。緊張は、安堵と喜びに変わった。

ホトトギス新加入

卯の花に、爽やかな薫風。誘われて美心会に2羽のホトトギスが「テッペンカケタカ」「特許許可局」と舞い降りた。新加入した2羽を紹介しよう。

^{すかねみこ}
須金恵美子さんは勝浦市小羽戸在住。

太極拳を始めようと思ったのは、テレビを見て関心があり、知人に誘われ入会を決意したそうです。他に参加している活動は、パン教室・編み物教室とのこと。

^{そうまらんか}
相馬蘭花さんは、勝浦市小松野在住。

太極拳を始めようと思ったのは、子供の頃から周囲の大人たちが公園で優雅に舞っている姿に強い関心を持っていたこと。実際に学ぶ機会がなく、今回は岡田さんが声をかけてくれ参加することに。他に参加している活動は特にないが、ただ今、家庭菜園を楽しんでいる最中だそうです。週一回の太極拳ですが皆さんと楽しく充実した時間を過ごせればと期待しています。

みなさん、ご指導よろしくお願ひします。